

第2回那珂川町学校規模適正化検討委員会議事録

令和7年10月10日（金）

14:00～15:30

那珂川町役場 201・202 会議室

1 開会

2 あいさつ

那珂川町学校規模適正化検討委員会委員長 池田 聖

3 会議録確認

- ・ 修正点がないか確認する。
- ・ 町のホームページに議事録と資料の掲載をすることの了解を得た。

4 説明

(1) 他市町学校規模適正化検討委員会の実施状況等について

- ・ 資料2に基づき、事務局より説明する。

(2) 小中学校一貫教育に関する学校の種別について

- ・ 資料3に基づき、事務局より説明する。

【委員からの意見・質問等】

- ・ 資料3の各学校の詳細が聞きたい。②併設型小・中学校では、小学校と中学校の先生が行き来したりするということだが、先生の働き方が問題になっている中で、本当に可能なのか。それぞれの学校にメリット・デメリットがあるのではないか。

(事務局) それぞれの学校にメリットはあると思うが、子どもたちがスムーズに中学校に進んでいける点が重要になると思う。詳細の資料があったら、紹介していきたい。また、①義務教育学校は建物が1つなので移動時間がかからないが、②併設型小・中学校では移動時間がかかる。

- ・ ②併設型小・中学校は、全国にいくつあるか。

(事務局) 数の把握はしていない。大田原市では、全中学校区で行っている。

- ・ 義務教育学校では、教頭も1人なのか。

(事務局) 前期課程1人、後期課程1人配置している。

- ・ 義務教育学校に通う子どもたちの反応は、どのようなものか。

(事務局) 全ての学校の状況を把握している訳ではないが、子どもたちの受け止め方は、好評だと思う。

- ・ 年の離れた学年が一緒に学んだりすることがあるのか。

(事務局) 縦割り班活動の他に総合的な学習の時間などで活動することがある。

- ・ 那珂川町学校規模適正化検討委員会設置要綱第1条でより良い学校教育環境を充実させるとあるが、どのようなところに重点を置いて、今後の教育環境を整えるのか。現時点で、今後に向けたプランがあるのか。

(事務局) ハッピースローププランは、引き続き実施していきたい。予算を充実

させ、小学1年生のクラスに学校補助教諭を配置している。今後も学校からの要望で、対応できるものは対応していきたい。今後のプランについては、委員の皆さんに意見を出していただきながら、進めていきたい。

5 協議

(1) 本町における学校教育のあり方について

- ・ 資料4・5・6に基づき、事務局より説明する。

【委員からの意見・質問等】

- ・ 栃木教育ビジョン 2030 は、どのような方に配布するのか。また、完成した冊子には具体的な内容も掲載されるのか。さらに、学校側の反応は、どのようなものか。
(委員) 栃木教育ビジョンは、5年ごとに作成している。今年度で、5年前に作ったビジョンが終了する。新しい栃木教育ビジョン 2030 でも県として目指す指標を示した上で、成果目標を立てている。完成後は、学校や教育委員会に配布するとともに、ホームページにも掲載する。今後、各学校において栃木教育ビジョン 2030 の実現に向けた取組を行っていただく。
- ・ 今後少子化が急激に進んでいく。那珂川町では、子ども園・小学校・中学校あわせて12年間、教育課程的にも系統的な教育が行われている。また、生涯学習の視点からも長いスパンでふるさと教育やふれあい学習を行うことができると思う。
- ・ 栃木教育ビジョン 2030 では、“こども”の表記が、全てひらがなののはなぜか。
(委員) 県や全国の子ども会連合会では、子どもは、ひらがなで表記することが多いので、県教育委員会で作成している栃木教育ビジョン 2030 の表記も“こども”に統一しているのではないか。
- ・ 様々な学校があるが、1番の問題は、設置場所だと思う。学校がなくなれば地域が閉塞してしまう。統廃合をすれば、設置場所を決めなければならない。子どもの通学時間や距離は、ダイレクトに教育環境につながる。①義務教育学校、②併設型小学校・中学校、③連携型小学校・中学校の優れている点だけで学校の設置を決めることは考えにくい。PTAの意見を十分に聞いた上で、更に深く掘り下げた協議を行っていくべきだと思う。
- ・ いろいろな考えに触れる機会があるということは、とてもいいことだと思う。クラス替えがないと様々なことが固定化してしまうので、クラス替えがある方がいいと思う。子どもたちには、学校生活を通して、自分が住んでいる地域に誇りを持てるようになってほしい。
- ・ 馬頭東小学校は、人数が少ない。親と子、学校と地域のコミュニケーションを取ってきたが地域の人でも減ってきた。地域との交流がもっとあってもいいかなと思う。また、田舎と都会では経験ができることが異なる。田舎にしかないものをフル活用して、子どもたちが大人になった時に自慢できる経験ができればいい

いと思う。

- ・将来、那珂川町に残ってもらえるような子どもになってほしい。
- ・義務教育学校は教育的に魅力があるが、通学時間が1時間を超えてしまうのは、子どもにとって負担である。どの学校でも地域に教育課程の発信をすることは、必要だと思う。教育課程を地域に周知していくことは大切であり、地域で子どもを育てるということに繋がると思う。また、町で頑張っている人と交流を持つことは、キャリア教育につながる。子どもたちには、町に憧れを持ってもらいたい。そのような活動が地域で子どもを育てていると感じる。
- ・小学校の授業参観に参加した時、特別支援学級で複数学年の児童が一緒のクラスで学習していたことに驚いた。グローバル社会になってきて、その子にあった教育がされていくのがいいなと思った。
- ・小規模校だとクラスの男女比が悪い時がある。このことが原因で学校に行きたがらなかつたり、逃げ場がなかつたりしたという話を聞いたことがある。単学級でもそれなりの人数がいれば、例えば、あるグループでうまくいかない場合でも他のグループで仲良く過ごすこともできる。学校規模が小さすぎることはメリット・デメリットがある。クラス替えができた方がいいと思うが、現在の規模でもいいとも思う。子どもには、上級学校に進学し、人数が増えていく中でも物怖じしないしてほしい。人数が多いからといって、自分の存在を消したりせず、自信を持ってほしい。
- ・来年4月に小学校に入学するが、楽しみより不安の方が大きい。最近の学校に関連するニュースを見ると、他人事ではないと思うことがある。ウェルビーイングの言葉を聞いた時に、子どもたちが楽しく学校に通うことはいいことだと思うが、一方で先生方もストレスを感じると思う。子どもに話を聞くだけでなく、先生がストレスを感じているかなど、教職員に対してどのような対策をされているかを聞きたい。小川小学校に入学予定なので、小川小学校の校長先生に伺いたい。

(小学校長) 誰もが安全に安心して学べる学校が1番だと思う。それを保障していくことが学力向上につながると思う。教職員に対しては、お互いに風通しのいい雰囲気を作っていくことを心掛けている。また、保護者や地域の方にも風通しがいい学校になるよう心掛けている。「今日も楽しかった。」、「明日も学校に行きたいな。」、「来週も学校に行きたいな。」と思える居場所を作りたいと考えている。

- ・コミュニティースクールの記事を新聞で見た。町の広報誌で馬頭高校の様子を地域に発信している。小学校や中学校でも掲載したらどうか。地域の方は学校の様子があまり分からない。馬頭高校の記事は、毎回楽しみにしている。

(事務局) 各学校には学校運営協議会が設置されている。広報紙に各学校の様子を掲載することは、担当課に提案したい。

- ・スクールバスの中で、英語やラジオ、落語などを流してはどうか。
(事務局) 校長会で伝えたい。
- ・小学校へ入学する時の不安が自分の時代と違う。子どもたちには、あいさつができる子どもになってほしい。一番は健康だが、思いやりのある子になってほしい。また、学校教育も大切だが、家庭教育をしっかりと行った上で、学校に子どもを預けるようになるともっと良い。
- ・学校の統廃合をした場合、地域としてはさびしいが、学校は地域にとって財産なので、町として統廃合をした後の施設の利活用についても考えながら進めてもらえるとうれしい。
- ・少人数すぎると人間関係が固定化されてしまう。上級学校へ進学した際、大人数の経験が少ないと心配である。

(2) その他

- ・学校規模適正化に向けて地域の方から、アンケートやパブリックコメントを行うなど、意見を広く多く聞いたらどうか。
(事務局) 事務局でもアンケートや学校現場の視察を考えている。アンケートの内容を検討し、次回の会議には委員の方に案を見ていただきたい。
- ・箒根学園を視察したらどうか。
- ・アンケートは、PTAの保護者だけでなく広く町民から意見をももらった方がいいと思う。

6 事務連絡

- ・事務局より次回の連絡を行う。

7 閉会